

# コルエアダクト<sup>®</sup>

(段ボール・コルエアダクト)

## 施工要領書

(ニップルタイプ)

2026年2月5日

 株式会社 栗本鐵工所

建材事業部

## コルエアダクトの施工上の注意

## ○コルエアダクト施工上の注意

施工前に、この事項を必ずお読みになり、正しく安全に施工してください。  
この項目に示した事項は、安全にお使い頂く為の重要な内容を記載してありますので必ずお守りください。



この表示を無視して誤った取扱をすると人が死亡または重傷を負う可能性が想定される内容を表示しています。



この表示を無視して誤った取扱をすると人が傷害を負う可能性及び物的損害が発生すると想定される内容を表示しています。



『重要事項』を意味します。

■特記

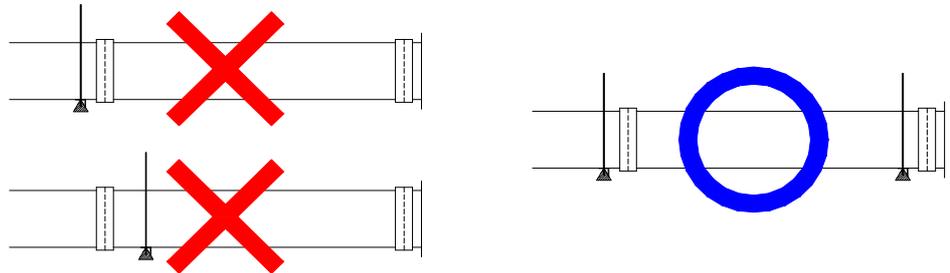
## コルエアダクトの施工上の注意

## ○コルエアダクト施工上の注意

- 警告** コルエアダクトは段ボール製です。不燃材料認定を受けていますが、溶接・溶断等の過度の火気を近づけないでください。また、従来の鉄ダクトより脆弱なため、コルエアダクトの上を歩くと転落する危険性があります。絶対に上を歩いたり、体重をかけたりしないでください。
- 危険**

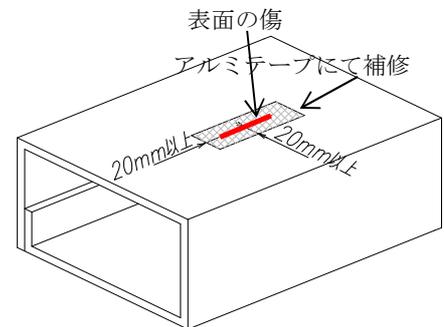


- 注意** コルエアダクトの支持は片持ち状態とならないように注意してください。接続部で折れる恐れがあります。



- !** 現場にてコルエアダクトを加工（切断、穴あけ等）した際は、必ず切断面をアルミテープで養生してください。湿気により素材の強度が低下し、変形・破損する恐れがあります。

- !** ダクト表面に傷がついたときは、専用のアルミテープを傷の周囲20mm以上に貼り、ヘラで圧着して補修してください。尚、貫通するような傷の場合は新しいダクトと交換が必要です。



- !** コルエアダクトに貼るアルミテープにしわが発生した場合、アルミテープを貼替えてください。

■特記 専用アルミテープは(株)栗本鐵工所よりお求めください。



## コルエアダクトの仕様

## ○コルエアダクトの仕様（ニップル方式）

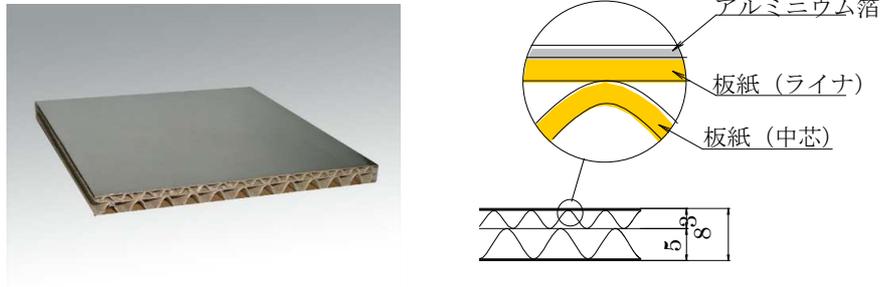


図1 コルエアダクトの特徴

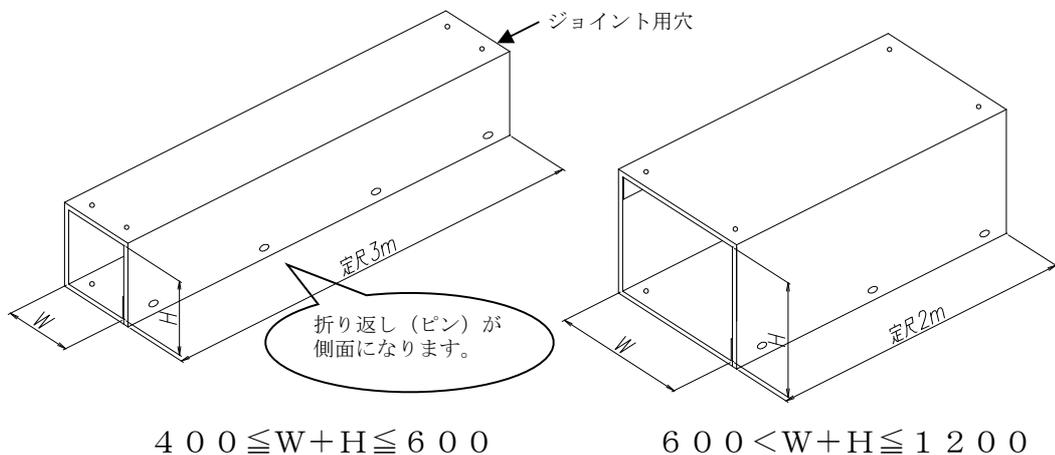


図2 コルエアダクト概要図

表1 コルエアダクトの仕様

ダクトサイズ (W+H)	材質	厚み	使用シート枚数	定尺長
400～600mm	高機能 段ボール	8mm	1枚	3m
650～1200mm <sup>※</sup>			2枚	2m

※ダクト幅（長辺）が600mmを超える場合は、補強が必要です。

表2 使用範囲

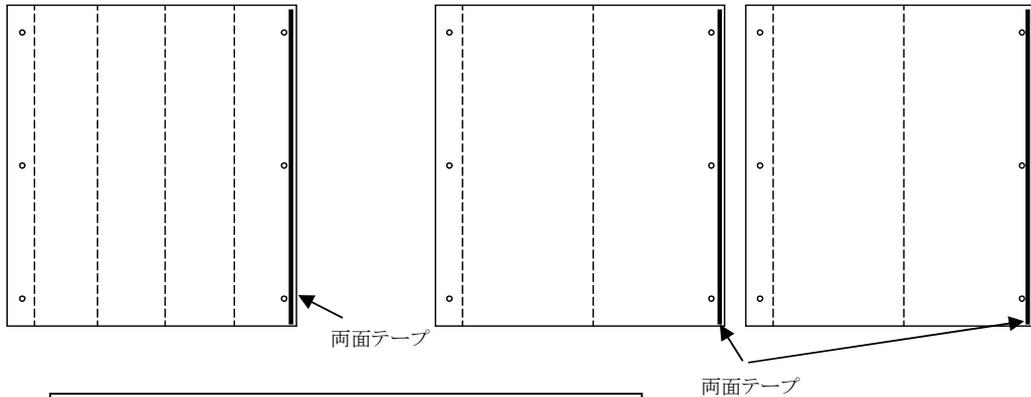
風速	10m/s以下
静圧	-200～+500Pa
温度	-10～+60℃
用途	一般空調ダクト
不適当な用途	排煙、厨房排気、防火区画貫通、有機溶剤を含む排気、常時結露が発生するダクトなど

## ■特記

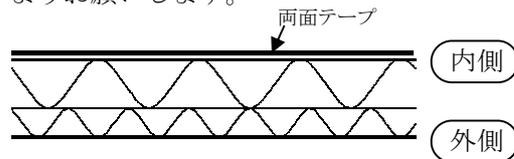
## コルエアダクトの組立

## ○コルエアダクトの製作・組立

直管は工場にて罫線を入れた平板を製作し、現場へ搬入後、工事業者様にて組立てください。

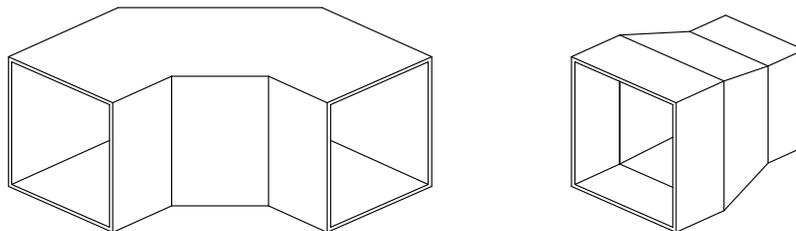


段ボールには裏表があります。取り間違わないようお願いします。



両面テープが貼ってる側が内側になります。

異型管（エルボ等）は工場にて製作組立し、完成された状態で現場へ搬入いたします。



## ■特記

完成品は、傷つき防止のため緩衝材で全体または部分養生のうえ出荷いたします。

## コルエアダクトの組立

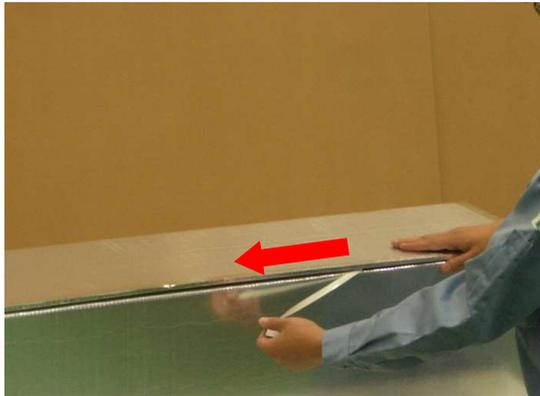
## ○コルエアダクトの組立方法

直管は工場にて罫線を入れた平板を製作し、矩形に組み立ててから現場へ搬入、又は現場組み立てとする。

①罫線に沿って平板を折り曲げる。



③重ね部分の隙間より両面テープの離型紙をはがし、リーク止めを行う。



⑤専用ピンAをアルミテープで養生する。



②専用ピンAで留め、形状を定める。  
このとき、重ね部の隙間から両面テープの離型紙を出しておく。



④さらに接合部をアルミテープでリーク止める。



⑥完成。

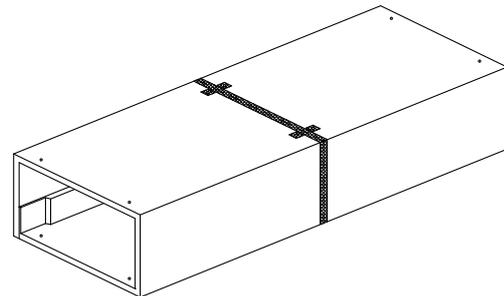
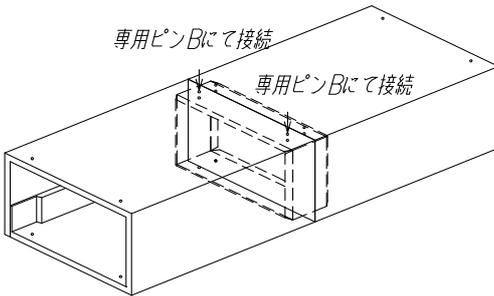
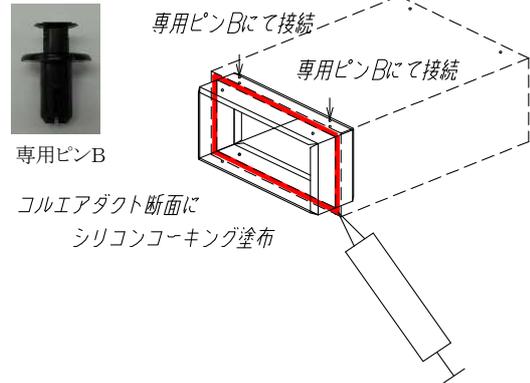
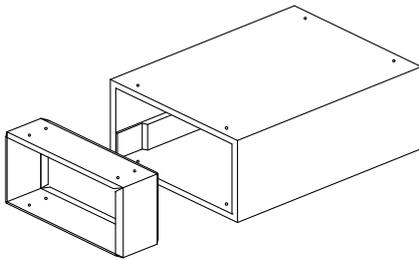


■特記

## コルエアダクトの組立

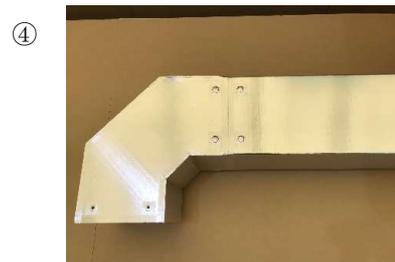
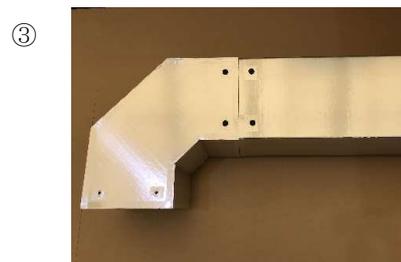
## ○コルエアダクト同士の接続（ニップル方式）

- ①コルエアダクトと専用ニップルを用意する。
- ②ニップルを差込み、専用ピンBにて接続し、ダクト同士が突き合わさる箇所（シリコンコーキングを塗布する。
- ③もう一方のダクトを差込み、専用ピンBにて接続する。
- ④接続周囲および専用ピンBをアルミテープにて養生して完成。



※) コーキング不十分や処置漏れは、アルミテープ表面結露につながる可能性があります。

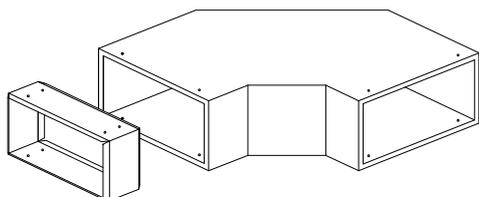
■特記 接続イメージ写真(直管同士/直管と異型管/異型管同士 同様手順です)



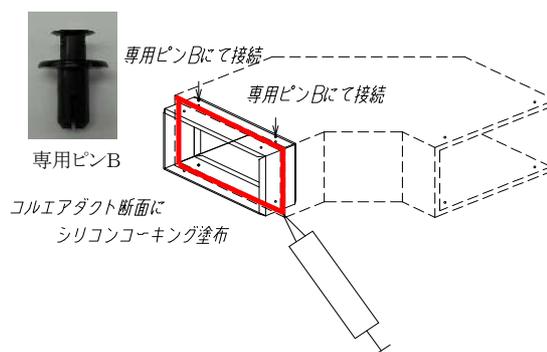
## コルエアダクトの組立

## ○コルエアダクトと異型管との接続（ニップル方式）

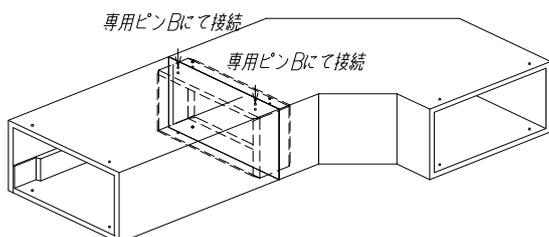
①異型管と専用ニップルを用意する。



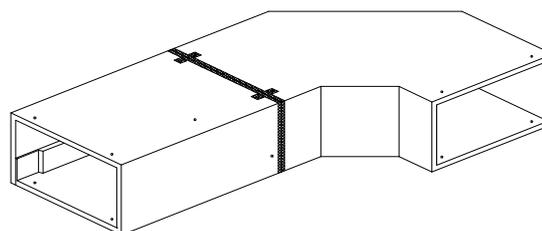
②ニップルを差込み、専用ピンBにて接続し、ダクト同士が突き合わさる箇所にシリコンコーキングを塗布する。



③コルエアダクト直管を差込み、専用ピンBにて接続する。



④接続周囲および専用ピンBをアルミテープにて養生して完成。



※) コーキング不十分や処置漏れは、アルミテープ表面結露につながる可能性があります。

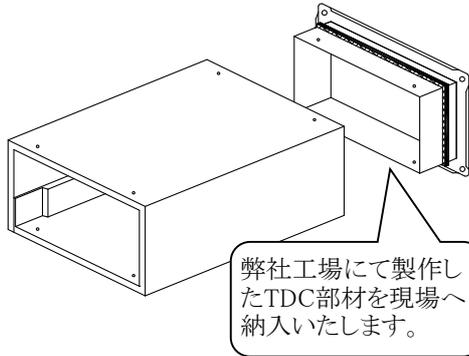
## ■特記

前ページ（P4/14）と接続作業内容同様です。

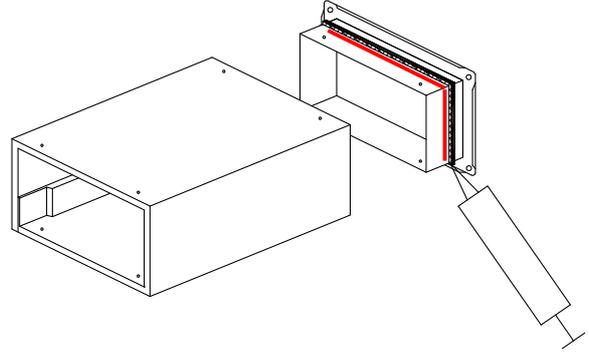
## コルエアダクトの組立

## ○コルエアダクトとTDC部材との接続（ニップル方式）

①コルエアダクトとTDC部材を用意する。



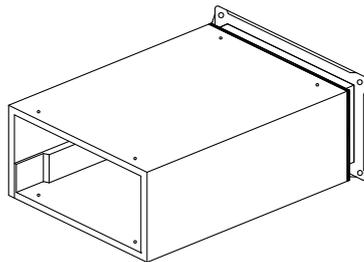
②TDC部材に付いているスポンジゴムにシリコンコーキングを塗布する。



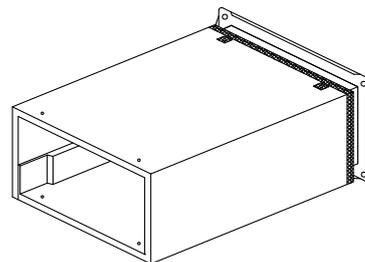
③ダクトを差込み、専用ピンBにて接続する。



専用ピンB



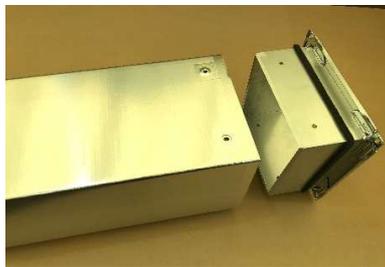
④接続周囲および専用ピンBをアルミテープにて養生して完成。



※) コーキング不十分や処置漏れは、アルミテープ表面結露につながる可能性があります。

## ■特記 接続作業イメージ写真

①



②



③



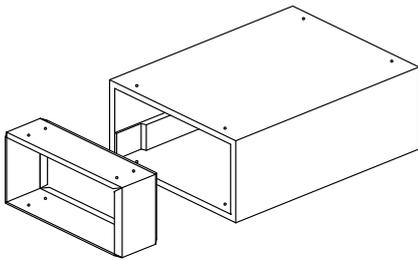
④



## コルエアダクトの組立

## ○キャップの施工方法（ニップル方式）

①コルエアダクトと専用ニップルを用意する。



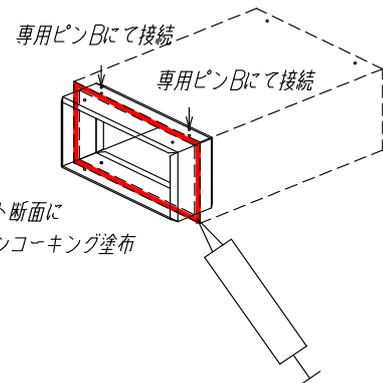
②ニップルを差込み、専用ピンBにて接続し、ダクト同士が突き合わせる箇所（シロ）にシリコンコーキングを塗布する。



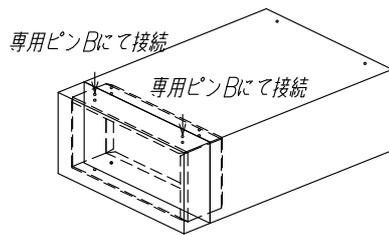
専用ピンB

コルエアダクト断面に

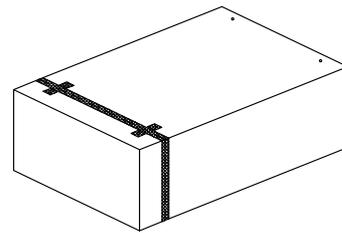
シリコンコーキング塗布



③ニップルにキャップを差込み、専用ピンBにて接続する。



④接続周囲および専用ピンBをアルミテープにて養生して完成。



※) コーキング不十分や処置漏れは、アルミテープ表面結露につながる可能性があります。

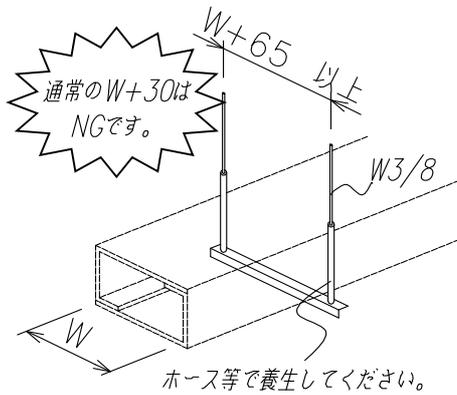
## ■特記

キャップ長さは約100mmを標準とし、ご指定のある場合は75～300mmの範囲とします。

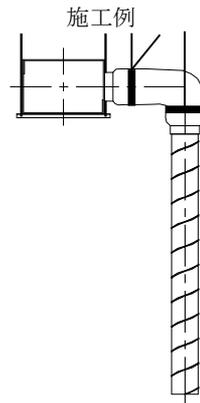
## コルエアダクトの支持

## ○コルエアダクトの吊り方法（ニップル方式）

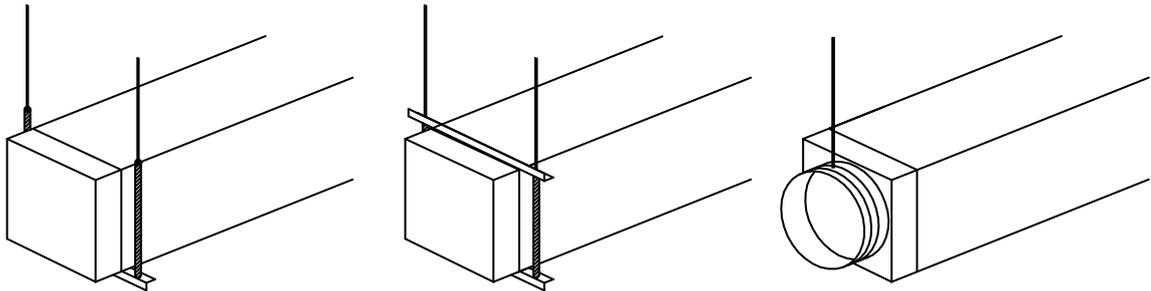
吊り材は通常の鉄ダクトと同様、吊りボルトとアングルを用いて吊ることができま  
す。



接続されるダクトの荷重  
がコルエアダクトにかから  
ないように、支持をしてく  
ださい。



端部では片持ちにならないようにアングル等で受けて下さい。



## ■特記

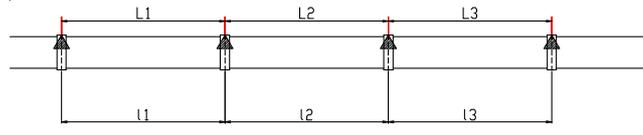
- 吊り間隔は「コルエアダクトの吊り間隔」の項を参照ください。
- 振れ止めはHASS 010に準拠して、12m以下の間隔に設けてください。
- 機器および鉄ダクトはそれぞれに振れ止め支持を設けてください。
- コルエアダクトは従来の鉄ダクトより脆弱なため、上を歩くと転落する危険性があります。絶対に上を歩いたり、体重をかけたりしないでください。
- コルエアダクトの支持は片持ち状態とならないように注意してください。接続部で折れる恐れがあります。

## コルエアダクトの吊り間隔

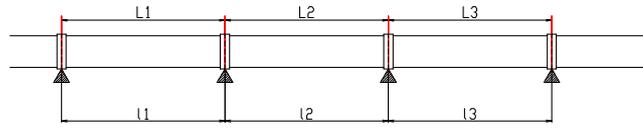
## ○コルエアダクトの吊り間隔

コルエアダクトの吊り間隔は、ダクト1本あたり1カ所以上として下さい。

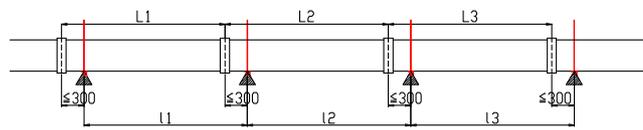
## 適切な例



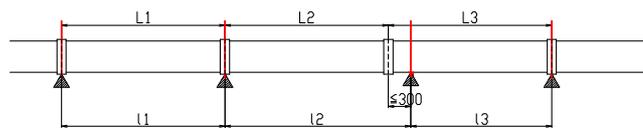
$l1 \leq L1 + 300$   
 $l2 \leq L2 + 300$   
 $l3 \leq L3 + 300$   
 となるので、K.



$l1 \leq L1 + 300$   
 $l2 \leq L2 + 300$   
 $l3 \leq L3 + 300$   
 となるので、K.

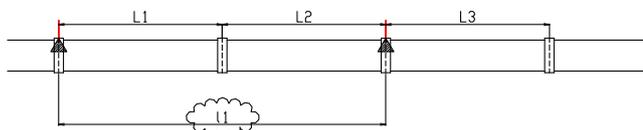


$l1 \leq L1 + 300$   
 $l2 \leq L2 + 300$   
 $l3 \leq L3 + 300$   
 となるので、K.

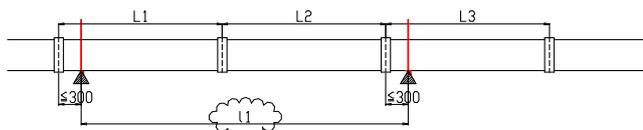


$l1 \leq L1 + 300$   
 $l2 \leq L2 + 300$   
 $l3 \leq L3 + 300$   
 となるので、K.

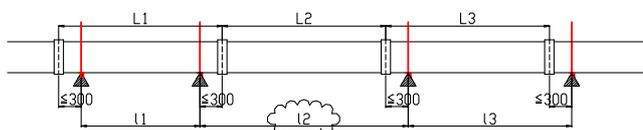
## 不適切な例



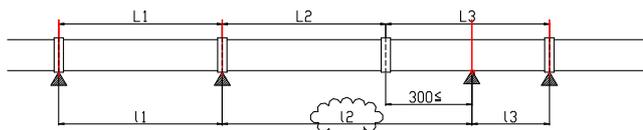
$l1 = L1 + L2$  となるので、N. G.



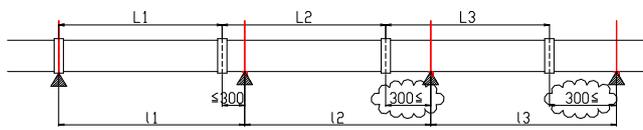
$l1 = L1 + L2$  となるので、N. G.



L2間で吊っていないので、N. G.



$l2 \geq L2 + 300$  になるので、N. G.



$l1 \leq L1 + 300$   
 $l2 \leq L2 + 300$   
 $l3 \leq L3 + 300$   
 であっても、継ぎ手部より300mm以上  
 離れているので、N. G.

■特記

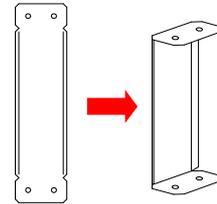
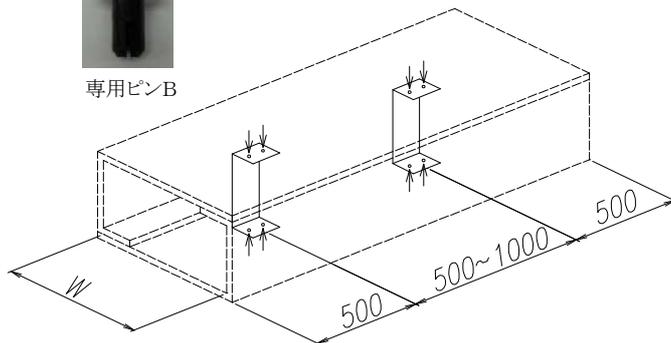
## コルエアダクトの補強

## ○コルエアダクトの補強

補強部材は、使用前に手で折り曲げてください。

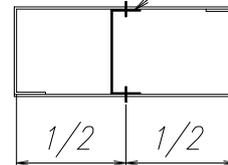


専用ピンB



補強材

材質：亜鉛鉄板  
板厚：0.6mm  
幅：100mm



—断面—

補強部材を用い、専用ピンBにて4点留めとする。

図1 コルエアダクト補強概要図

表1 コルエアダクトの補強

		ダクト内静圧(Pa)		
		-200~-1	0~350	351~500
ダクト幅 W (mm)	0	不要	不要	不要
	600			
	650	必要	不要	必要
	800			

補強材のサイズ：幅100mm、板厚0.6mmとする。

補強材のピッチ：端部より500mmとし、補強材間は1000mm以下とする。

## ■特記

補強部材の取付けを忘れると、ピン穴より空気が漏れます。また、ダクトが変形し破損する恐れがあります。必ず送風前に補強部材が取付けられていることをご確認ください。

ダクト工事			
-------	--	--	--

--	--	--	--

--	--	--	--

■ 特記			
------	--	--	--